

新型 SUBARU XV

乗る人すべてに最高の安心と愉しさを



あつかいやすいサイズのクロスオーバー SUVとして、多くの人に愛されてきたSUBARU XVが2代目モデルに生まれ変わった。新型インプレッサに続いてスバル・グローバル・プラットフォーム(SGP)を採用し、街中でも取り回ししやすいジャストサイズ感のままに、車高を高めた力強いエクステリア、スバル独自のAWDシステムなどにより走行性能を一段と強化。そのアクティブなスタイルは自分の活動するフィールドを問わず拡げたいなる躍動感に満ちている。さらにスバルが進化させてきたアイサイトの最新バージョンと歩行者保護エアバッグを全車に標準装備し、世界トップレベルの安全性能を確保。どこまでも走って行きたいとなるクルマに仕上がった新型XVの魅力を探ってみよう。



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
芝大門ビル3階
電話 東京 (03) 5777-2331 代表

スバル

新型
SUBARU
XV

特集号



スポカンジ

一目で感じるワクワク感



SUBARU XV 2.0i-S EyeSight

文/田畑 修(モータージャーナリスト) 写真/奥隅 圭之

4つのグレードとカラーバリエーション



クリスタルホワイト・パール



アイシシルバー・メタリック



ダークグレー・メタリック



クリスタルブラック・シリカ



ビュアレッド



ダークブルー・パール



クワーツブルー・パール



クールグレーカーキ



サンシャインオレンジ

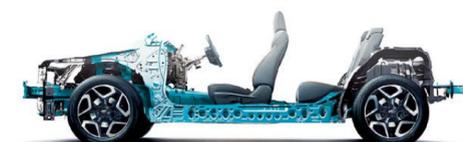
SUBARU XV 主要諸元表

車名・型式	スバル・DBA-GT3		スバル・DBA-GT7	
	1.6i EyeSight	1.6i-L EyeSight	2.0i-L EyeSight	2.0i-S EyeSight
駆動方式	AWD(常時全輪駆動)			
トランスミッション	リニアトロニック			
全長×全幅×全高(mm)	4,465×1,800×1,550			
室内 長×幅×高(mm)	2,085×1,520×1,200			
ホイールベース(mm)	2,670			
トレッド 前/後(mm)	1,555 / 1,565			
最低地上高(mm)	200			
車両重量(kg)	1,410	1,410	1,420	1,440
乗車定員(名)	5			
最小回転半径(m)	5.4			
JCO8モード燃料消費率(km/l)	16.2	16.2	16.4	16.0
ステアリング歯車形式	ラック&ピニオン式			
サスペンション(前輪/後輪)	ストラット式独立懸架/ダブルウィッシュボーン式独立懸架			
ブレーキ(前/後)	ベンチレーテッドディスク/ベンチレーテッドディスク			
駐車ブレーキ形式(後2輪制動)	電気式			
エンジン型式	FB16		FB20	
エンジン種類	水平対向4気筒			
総排気量(cc)	1,599		1,995	
最高出力(kW<PS>/rpm)	85<115>/6,200		113<154>/6,000	
最大トルク(N・m<kgf・m>/rpm)	148<15.1>/3,600		196<20.0>/4,000	
使用燃料/タンク容量(l)	無鉛レギュラーガソリン/63			
タイヤサイズ	225/60R17	225/60R17	225/60R17	225/55R18

※燃料消費率は定められた試験条件での値です。実際の走行時には、気象、道路における交通の混雑の状態、運転方法、習慣、整備状況およびその他の状況に応じて燃料消費率が異なります。メーカーオプションの装着により車両重量、燃料消費率が変更となる場合があります。その他、詳しくは販売店にお問い合わせください。

SUBARUのグローバル・プラットフォーム

今年4月から会社名を富士重工業から「SUBARU」へと変更し、その第1弾となった新型SUBARU XV。新型インプレッサと共通のスバル・グローバル・プラットフォーム(SGP)は、剛性アップと低重心化により動的質感を高めると同時に、その応答性の高さが安全性を向上させている点も見逃せない。突然の危険回避でステアリングを切った場合でもクルマ全体がしっかり追従し、衝突などを回避できる可能性は高い。車高を高めた新型XVでもそのポテンシャルは変わらず、さらにドライバーが思った通りのラインをたどれる素性のよさ、不快な振動を抑えた乗り心地のよさなど特筆すべき点は多い。その優れた特性は新型XVで一段と進化したと見てもいいだろう。



SUBARU XV



オレンジステッチのアクセントがアクティブな気分を盛り上げる



運転操作に集中できるインターフェイス



アイドリングストップを表示 マルチファンクションディスプレイ

インテリアデザイン

質感にこだわった新型インプレッサのインテリアを受け継ぎ、新型XVもクラスを超えた仕上がりのよさが印象的だ。立体的でダイナミックな造形が躍動感を高める一方で、効果的に散りばめられたメタル調パネルのシックな輝きが落ち着いた雰囲気演出。シートやドアトリム、ステアリングホイールに配されたオレンジ色のステッチはXV専用のもので、ちょっとした遊び心が嬉しい。計器盤に目を移すと水平ゼロ指針の2連アナログメーターがメカニカルな味わいを残し、走り心をくすぐる。ダイヤル式の空調スイッチは操作しやすく、ダッシュボード上部中央の液晶パネルに表示される情報との運動感もいい。居心地のよさと、運転する楽しさがしっかり両立されている。



後退時も安心な死角の少ない後方視界



長時間の運転でも疲れにくいシート

Engineer's Voice

SUBARU 商品企画本部 プロジェクトゼネラルマネージャー 井上 正彦さん

インテリアは新型インプレッサですでにご好評をいただいておりますので、大きくは変えていませんが、居心地のよさに加えてちょっと遊び心を、と考えてオレンジ色のステッチを施しています。エクステリアはフロントグリルに注目してください。シルバーのウイングをブラックのプロテクターが左右から支えているようなデザインで力強さを出しています。地面をガッチリとらえるイメージでデザインしたアルミホイールも、ぜひ実車で確認してください。ロールを抑えたセッティングにより、車高を感じさせない走行安定性もぜひ試乗で体感していただきたいですね。



世界トップレベルの総合安全性能

予防安全と運転支援システム

新型XVは全グレードに最新のアイサイト・バージョン3を標準装備。ステレオカメラで常に前方を監視し、先行車両や歩行者、自転車などの接近を察知すると警告を発してドライバーに注意を喚起する。回避操作がない場合は自動ブレーキを作動させて衝突を防ぐ機能も備えている。また、シフトレバーやペダルの誤操作による急な飛び出しを抑制するAT誤発進抑制制御、AT誤後進抑制制御により、ドライバーの誤判断もカバーしてくれる。さらにアイサイトは先行車と適度な車間を保ちながら走行できる全車速追従機能付きクルーズコントロール機能や、車線中央を走り続けられるアクティブレーンキープ機能も備え、ドライバーの負担を軽減。安全運転を支援してくれる。



先行車 3m 0km/h

歩行者 9m 4km/h

自転車 4m 0km/h



ステレオカメラで常に前方を監視する



歩行者保護エアバッグ



運転席 SRS ニーエアバッグ展開イメージ

スバルの総合安全思想、0次安全など



スバルの持つ安全技術を惜しげもなく搭載した新型XV。基本設計の段階から安全性能を考える「0次安全」では、危険な状況に陥ることを防ぐために視界を確保し、シートをしっかり設計することでドライバーの疲労を減らすといった部分にも配慮。Aピラーを細く仕上げ斜め前方の視認性を高め、身長の子供の存在もすぐに確認できる。この視認性のよさは街中のクルマの取り回しやすさにもつながっている。また、パフォーマンスを増したプラットフォーム、シメトリカルAWDの安定性、旋回性能を高めるアクティブ・トルクベクタリングなどにより走行安定性を高め、いざというときの緊急回避性能も確保。クルマが不安定な状態に陥るのを未然に防いでくれる。

次世代の衝突安全性能

万一の衝突時も衝撃や変形からキャビンを守るボディに加え、サイド&カーテンエアバッグ、ニーエアバッグなど7つのエアバッグ、ボンネット後部で膨らんで歩行者への衝撃を和らげる歩行者保護エアバッグを全グレードに標準装備。この次世代を見据えた衝突安全性能は公的機関の衝突試験でも実証され、2016年度の自動車アセスメント（JNCAP）の評価得点で過去最高を更新。199.7点を獲得し、「衝突安全性能評価大賞」を受賞している。

エクステリアデザイン

新型インプレッサのデザインを受け継ぎながら、XVならではのクロスオーバー指向で仕上げられたスタイルは魅力的だ。最低地上高を200mm確保したフォルムはSUVのたくましさを感じさせながら、街のなかでも映えるファッショナブルさも備えている。大径のタイヤとホイール、それを際立たせるサイドクラディング（樹脂製のプロテクターモール）、専用のフロントグリルが力強さを演出。SUVの持つ走破性の高さを感じさせる一方で、街中ではそのアンマッチングな雰囲気がかえってお洒落に見える。クオリティの高さを感じさせる切削デザインのホイールはXVの特徴として欠かせないもので、先代モデル以上にその仕上げにはこだわりが感じられる。



デザインフィロソフィー “DYNAMIC X SOLID”



ゆとりあるロードクリアランス

本格的、機能的、ファッショナブル

ユーティリティとパッケージング

スバル・グローバル・プラットフォーム（SGP）の採用により室内スペースの余裕度も増し、前後席ともにゆったり過ごせる空間が確保されている。とくに後席は足元スペースの長さが26mm伸びられ、ドアが90度近くまで開くので楽に乗り降りできる。ラゲッジスペースは5人乗り状態で385ℓ（VDA法による測定）が確保され、9.5インチのゴルフバッグ3個の収納が可能。6対4分割の後席シートバックを倒せば奥行き1631mmのスペースが生まれるので長尺物の積載もこなせる。リアゲートの開口幅は最大1039mm、荷室高は777mmあるので大きなモノの出し入れも苦にならず、ラゲッジボード下に備わるサブトランクは汚れたものなどを収納したいときに重宝する。

パフォーマンスとパワーユニット

搭載エンジンは2ℓ直噴エンジンに加え、新たに1.6ℓが加わった。ともに自然吸気の水平対向エンジンで、各部の高剛性化や軽量化、摩擦の低減により気持ちよく回るパワーユニットに仕上がっている。トランスミッションは軽量化が図られたリニアトロニックが組み合わせられ、スバル伝統のシメトリカルAWD（四輪駆動）により効率よくパワーとトルクを路面へと伝える。また、新型XVには「X-MODE」装着車も新たに用意され、雪道や傾斜の強い不整路などでも常に的確な駆動力と制動力を四輪に配分。急な下り坂では「ヒルディセントコントロール」が作動し、ブレーキ操作をしなくても安全に下れるように制御してくれる。200mmの最低地上高も含め、本格的SUVも顔負けのポテンシャルを秘めている。



「X-MODE」スイッチ



2.0ℓ直噴エンジン



広々としたラゲッジスペース

0次安全を意識した高い視認性

